

まちだの 新たな学校 づくり

Machida
New School Project
2040



まちだの新たな
学校づくり
Machida New School Project 2040

まちだの新たな学校づくりの 推進に向けて

新たな学校づくりでは 地域との関わりを 重視しています

町田市では、1960年代から大規模団地の建設などによって、人口が大幅に増加しました。これに応えるため、小・中学校も多く建設されました。しかし近年、少子化によって児童・生徒数の減少が進んでいることに加え、学校施設の老朽化が課題となっています。

こうした中で教育委員会は、2021年5月に「町田市新たな学校づくり推進計画」、「町田市立学校施設機能別整備方針」、「町田市立学校個別施設計画（学校整備計画編）」を策定しました。これらの計画に基づき、通学区域の見直しや学校統合と並行して、老朽化が進む校舎の建替えを行っていきます。

学校統合等を契機とした新たな学校は、学校教育の場であることはもちろん、地域と学校の繋がりを深めるため、コミュニティルームを整備するとともに、学校運営協議会を充実させる取組も進めています。この推進計画を進めるにあたり、引き続き地域の皆様の貴重なご意見をいただきたいと思っています。「まちだの新たな学校づくり」にぜひご協力ください。



町田市長
石阪 丈一

新たな学校づくりを通じて 未来の子どもたちの 教育環境を刷新してまいります

教育委員会には、毎年PTAの皆さまから学校を良くするため様々なご要望を頂戴します。その中で最も多いのが施設の老朽化に関するご要望です。子どもたちの安全を守るために必要な修繕や改修は最優先で行っています。また、その他のご要望についても優先順位をつけて進めていますが、すべてにお応えしきれない現状がございます。

さらに、2040年度までに児童・生徒が約30%減少する見込みの中で、高度経済成長期に建設した学校施設が徐々に耐用年数を迎えることから、すべての学校を建替えることは極めて困難な状況であり、学校統合の議論は避けることができないものでした。

教育委員会ではこの学校統合の議論を、未来の子どもたちにより良い教育環境をつくる機会と前向きに考え、2021年5月に「町田市新たな学校づくり推進計画」を策定しました。

新たな学校づくりを通じて、老朽化した学校施設をはじめ、未来の子どもたちの教育環境を刷新してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



町田市教育委員会 教育長
坂本 修一

まちだの 新たな学校 づくり

Machida New School Project 2040

ともに学び、ともに育つ 学び舎づくり — 2

1. 学校を取り巻く環境変化 — 4
2. 推進計画ってなんだろう — 6
3. 推進計画ができるまで — 8

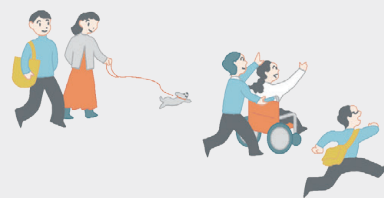
新たな 教育環境を つくる — 10

4. 学校施設、何が困ってるの? — 12
5. 新たな教育環境をつくる
 - ① 新たな教室をつくる [小学校編] — 14
 - ② 新たな教室をつくる [中学校編] — 16
 - ③ ラーニングセンターをつくる — 18
 - ④ 学校と地域が協働する拠点をつくる — 20
 - ⑤ 新たな職員室をつくる — 22
6. 新たな通学区域 2040 — 24
7. 新たな学校ができるまで — 26
8. よくある質問と回答 — 28
まちだの新たな学校づくり [資料編]

ともに学び、 ともに育つ 学び舎づくり

「学校統合=新たな学校づくり？」
まちだの新たな学校づくりが
目指すものとは。

学校と地域が
協働する学校



教育の目的=人格の完成 を目指して

学校に通学して学ぶ意味とは何だと思いませんか？
昔から「読み書きそろばん」と言いますが、学校には、
読み書きや計算、各教科の学習を通じて知識や技能を習
得するという大切な役割があります。
その一方で、子どもたちの習熟度に応じて学習内容を

示すソフトウェアが活用されつつあり、知識や技能の習
得では、ICTを活用した教育活動が優位になっていくこと
が想定されます。

しかし、教育の目的が「人格の完成」であると考えた
ときに、学校には最も大切な役割があります。

それは、多様な価値観を持つ多くの子どもたちが、学
校生活を通じて集団で話し合い、励まし合いながら学ぶ
ことで、思考力、判断力、表現力を身に付け、社会性や



子どもたちが
学び合う学校

大人が子どもの
育ちを支える学校

大人も学び、
育つ学校

生活をより
豊かにする学校

人間関係を形成する力を育む「場」としての役割です。
この集団で生活し、学び合うことそのものが学校に通
学して学ぶ意味だと考えています。

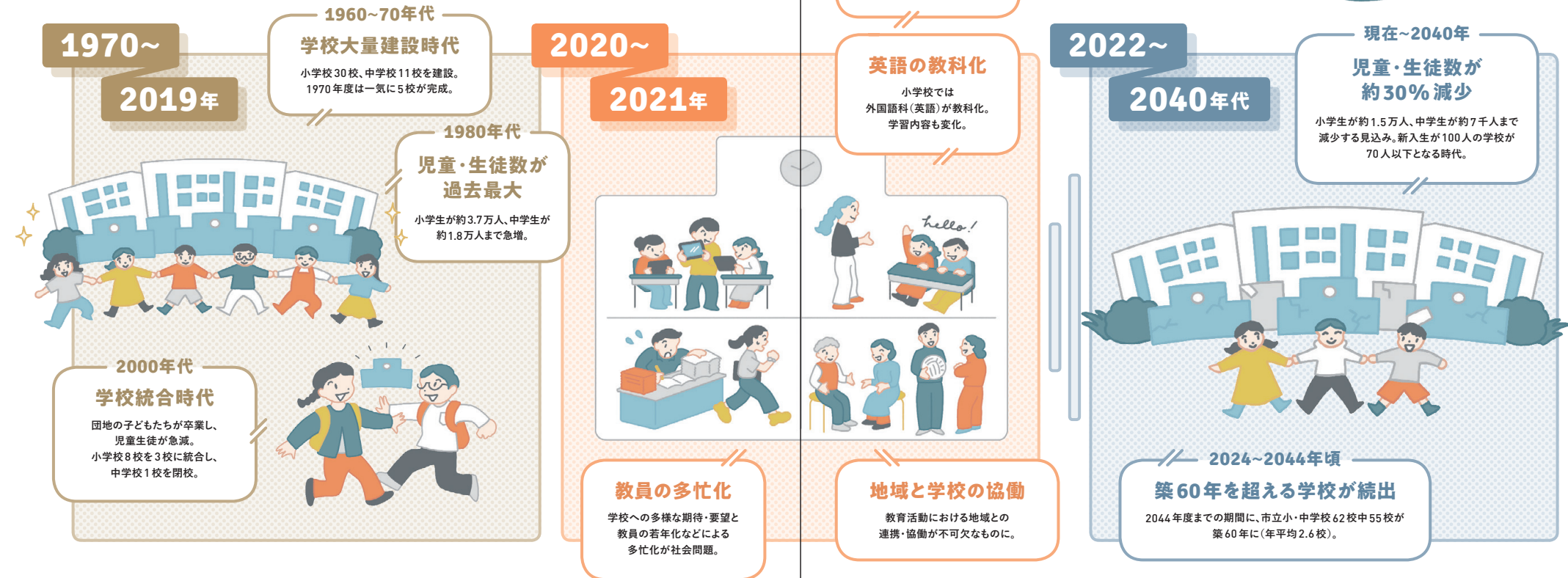
町田市は、少子化と学校施設の老朽化という問題に直
面しており、学校統合を避けることはできません。

この学校統合を、学校に通学して学ぶ意味を踏まえた
「ともに学び、ともに育つ学び舎」をつくる機会とするた
めに「町田市新たな学校づくり推進計画」をつくりました。

まちだの新たな学校づくりを通じて、子どもたちだけ
ではなく、大人もともに学び、ともに育つ場づくりを進め
ていきたいと思っておりますので、まちだの新たな学校づくり
の取り組みにぜひご参加ください。

1 学校を取り巻く環境変化

町田市の少子化と学校施設の老朽化の状況と、教育環境の変化について、歴史を振り返りながら見てみよう！



学校の建て替え時期が集中する理由とは

町田市は団地のまちです。高度経済成長期に大規模団地が建設されたことによって人口が急増しました。1965年には小学生が約1万人、中学生が約5千人だったものが、1980年代初頭には、小学生が3.7万人、中学生は1.8万人まで急増したことから、この時期に沢山の学校を建設しています。その後、大規模団地の子どもたちが卒

業したことで、2000年代初頭に小・中学校の一部を統合しました。

現在、少子化によって小・中学生は減少を続けており、2040年度には、小学生が1.5万人、中学生が7千人まで減少する見込みです(2020年度比約30%減)。

その一方で、高度経済成長期に建設した学校が一斉に老朽化を迎えています。全国の公立小・中学校の平均建替時期は築42年ですが、町田市立小・中学校では、2021年度時点で、築42年を超過している校舎のある学

校が62校のうち41校あります。

特に2024~2044年度は、築60年(鉄筋コンクリート造の建物の耐用年数)を迎える学校が集中しています。そして、建て替えや長寿命化改修にかかる費用が3,000億円を超えるため、すべての学校を維持することが難しいことから、学校統合の議論を進めてきました。

また、小学校における英語の教科化やICTを活用した教育活動の推進といった教育内容・方法の変化や、教員の多忙化、そして教育活動に不可欠となった学校と地域

の協働といった教育環境の変化に、1960~70年代頃に設計した学校施設が十分対応できていません。

このことから、学校統合を契機として、まちだの未来の子どもたちにより良い教育環境をつくるとともに、将来の環境変化にも柔軟に対応できる新たな学校づくりの議論を進める必要がありました。

2 町田市新たな学校づくり推進計画の概要

〈参考1〉小・中学校別の児童・生徒数・学級数推計、建築年度からの経過年数

小学校	児童数※1			学級数※2			建築情報※3	
	2021	2030	2040	2021	2030	2040	建築年度	経過年数
1 町田第一	662	897	933	20	29	30	1969	52
2 町田第二	390	476	502	12	16	18	1964	57
3 町田第三	450	352	304	14	13	12	1965	56
4 町田第四	545	459	502	17	16	18	1971	50
5 町田第五	535	536	500	17	18	18	1966	55
6 町田第六	269	222	199	10	11	6	1964	57
7 南大谷	593	534	460	18	18	18	1973	48
8 藤の台	427	319	287	15	12	12	1972	49
9 本町田東	236	180	171	10	6	6	1970	51
10 本町田	359	226	171	12	11	6	1977	44
11 南第一	652	649	584	20	23	18	1965	56
12 南第二	322	255	223	12	12	12	1978	43
13 南第三	379	349	341	12	12	12	1970	51
14 南第四	515	386	354	17	12	12	1966	55
15 つくし野	387	232	222	12	12	12	1970	51
16 小川	439	290	285	13	12	12	1974	47
17 成瀬台	625	538	432	18	19	18	1974	47
18 鶴間	616	973	593	18	31	18	1976	45
19 高ヶ坂	319	196	211	12	7	12	1978	43
20 成瀬中央	358	220	190	12	10	6	1979	42
21 南成瀬	350	222	214	12	11	11	1980	41
22 南つくし野	755	613	623	24	21	18	1980	41
23 鶴川第一	733	447	432	23	15	16	2015	6
24 鶴川第二	487	348	418	16	12	14	1973	48
25 鶴川第三	426	358	378	14	12	12	1967	54
26 鶴川第四	501	387	378	16	12	12	1970	51
27 金井	524	339	326	17	12	12	1977	44
28 大蔵	692	470	481	22	18	18	1980	41
29 三輪	480	421	374	16	15	12	1982	39
30 忠生	444	327	298	15	12	12	1966	55
31 小山田	265	199	191	10	8	6	1980	41
32 忠生第三	599	409	353	19	13	12	1974	47
33 山崎	365	249	219	12	12	12	1980	41
34 小山田南	532	345	276	18	13	12	1983	38
35 木曾境川	455	283	253	14	12	12	1977	44
36 七国山	556	278	251	18	12	12	1975	46
37 国師	545	323	289	17	12	12	2008	13
38 小山	788	581	563	24	19	18	1976	45
39 小山ヶ丘	843	627	457	24	21	18	2004	17
40 小山中央	719	365	370	21	14	13	2009	12
41 相原	394	343	346	12	12	12	1968	53
42 大戸	134	63	39	6	6	6	1983	38
合計	20,665	16,285	14,994	661	594	558		

中学校	生徒数※1			学級数※2			建築情報※3	
	2021	2030	2040	2021	2030	2040	建築年度	経過年数
1 町田第一	717	722	716	20	20	19	—※4	—※4
2 町田第二	461	499	485	13	15	14	1972	49
3 町田第三	356	345	226	10	11	7	1967	54
4 南大谷	498	501	418	15	14	12	1974	47
5 南	651	662	534	19	19	16	1968	53
6 つくし野	712	792	664	20	22	19	1975	46
7 成瀬台	420	423	285	12	12	9	1979	42
8 南成瀬	478	338	321	14	10	10	1981	40
9 鶴川	611	421	322	17	13	10	2001	20
10 鶴川第二	784	582	547	22	16	16	1972	49
11 薬師	304	225	172	9	8	6	1970	51
12 真光寺	280	216	185	9	7	6	1980	41
13 金井	459	350	296	14	11	9	1984	37
14 忠生	672	510	391	18	15	12	1973	48
15 山崎	334	176	134	11	6	6	1979	42
16 木曾	320	218	154	10	7	6	1983	38
17 小山田	453	272	229	13	9	7	1983	38
18 小山	847	575	400	24	17	12	2011	10
19 堺	562	470	329	16	14	10	1972	49
20 武蔵岡	74	45	31	3	3	3	1983	38
合計	9,993	8,344	6,841	289	249	209		

本表は、市立小・中学校別の2040年度までの児童・生徒数推計と各校の最も古い校舎を基準とした建築情報をまとめた一覧表です。各項目の読み方については、下記の注記をご覧ください。

※1 児童数・生徒数

2021年度…5月1日時点の児童・生徒数
2030年度・2040年度…2020年度に行った児童・生徒数推計結果

※2 推計にあたっての学級編制基準

〈小学校〉
2021年度・・・1・2年生は、35人につき1学級
3～6年生は、40人につき1学級
2030・2040年度・・・全学年、35人につき1学級
〈中学校〉1年生は35人につき1学級、2・3年生は40人につき1学級

※3 建築情報

最も古い校舎を基準とした建築年度と建築年度から2021年度までの経過年数

※4 町田第一中学校は2018年度から改築工事をしているため、建築年度及び経過年数を「—」と表記しています。

2 推進計画ってなんだろう？

学校統合を契機としたまちだの新たな学校づくり。
その基本となる新たな学校づくり推進計画をご紹介します。



まちだの新たな学校づくりに 込めた願いとは

少子化と学校の老朽化によって、すべての学校を建て替えることが難しい状況では、学校統合の議論を避けることができませんでした。

しかし、学校統合の議論を避けることができないとするならば、統合して建設する学校は、町田に生まれ育つ子どもたちが未来を切り拓くために必要な資質・能力を地

域ぐるみで育むような新たな教育環境をつくりたいと考えています。

この願いのもとに、審議会を設置して検討を重ね、学校統合を契機として新たな学校を建設するうえでの基本理念・基本方針を定めた「新たな学校施設整備の基本的な考え方」と、学校統合や通学区域を編成するためのルールブックである「適正規模・適正配置の基本的な考え方」をまとめました。

この基本的な考え方では、1学年あたりの望ましい学



級数を、小学校が「3～4学級」、中学校が「4～6学級」としました。

また、徒歩による通学距離の許容範囲を、文部科学省の基準である小学校4km、中学校6kmよりも厳しい、徒歩でおおむね2km程度(小・中学校共通)と定め、通学時間の許容範囲を概ね30分程度としました。

このルールブックをもとに、2040年度までに小学校を42校から26校、中学校を20校から15校に再編する「新たな通学区域」をまとめ、学校統合を契機とした新た

な学校づくりを推進するために「町田市新たな学校づくり推進計画」をつくりました。

そして、この推進計画に掲げた新たな学校施設の理想を具体化するために、「町田市立学校施設機能別整備方針」「町田市立学校個別施設計画」を一緒につくりました。

まちだの新たな学校づくりを推進することで、教育を重視する子育て世帯が町田市に住みたくするような新たな教育環境に刷新していきます。

新たな 教育環境を つくる

大きな環境変化に直面するまちだの学校。
その環境変化に対応できる
新たな教育環境を探検してみよう！

新しい学校は
どんな学校に
なるのかな？

〔小学生〕

小学3年生:探検が大好きで
新しい学校の探検を
楽しみにしている。

学校で
過ごしやすく
なるのかしら？

〔中学生〕

中学2年生:新しい学校では
どんな工夫があるのか
ワクワクしている。

学校は建物が
古くなっているけど、
どのようなことに
困っているのかな？

〔保護者父〕

子どもたちの父:教育環境と
先生の働く環境を
良くしたいと思っている。

荷物は全部収納
できるのかしら？
ゆとりのある広さが
あるといいわね。

〔保護者母〕

子どもたちの母:荷物の多さを
心配しているので
収納や広さに興味津々。

子どもたちが
学びやすい教室に
なるのかしら？

〔先生〕

小学校の先生:
学校の困りごとからどうしたら
より良くなるかを考えている。

授業準備も
しやすくなると
良いわ。

避難所が
運営しやすくなると
いいんじゃないか？

〔地域の人〕

子どもたちの祖父:
地域の防災に力を入れているので
避難施設に興味がある。

環境変化がもたらす 学校施設の困りごととは

町田市での学校の多くは1960～70年代に設計・建設されています。これらの学校が築60年を迎えていきますが、老朽化だけが学校施設の課題ではありません。

これまで総合的な学習や習熟度別の少人数指導、小学校における英語の教科化、ICTを活用した教育活動の

推進といったように、教育内容・方法が大きく変化しています。

そして、ICTを活用した教育活動が進展することが想定される中では、学校に通学して学ぶ意味を踏まえて、協働的な学習を重視した教育活動を進める必要があります。しかし、町田市の多くの学校施設は、これらの環境変化に十分対応することができていません。

また、教育活動を担う・支える人たちの学校施設環境

にも課題があります。町田市では、多忙化する教員の負担を軽減するために、教員を支援する人材を配置しています。そして、学校支援ボランティアに代表されるように、教育活動における地域との協働は不可欠なものとなっています。

しかし、教員以外の人材とチーム体制を構築して学校経営を行うことを想定して学校施設を設計していないことから、これらの人材の環境に十分な配慮をすることが

できていません。

このような学校の困りごとを、新たな学校づくりでどのように解決していくのか。その新たな教育環境を調査するために「新たな学校づくり探検隊」を結成しました。探検隊と一緒に、推進計画でつくる新たな教育環境を見てください。

4 学校施設、何が困ってるの？

1960～70年代に設計・建設した学校施設は、
教育環境の変化に対応できず、困っていることがあります。
それをランキングで見よう！



教室の困りごと



んー！狭くて全然入らない！

小学校 1位 82.9% 中学校 1位 82.8%

児童・生徒の収納スペース

教室の困りごと第1位は、小・中学校ともに収納スペースでした。
ランドセルやカバンを含めた学用品の多くが、ロッカーに収まらずに、廊下やロッカーの上に置かれています。

小学校 2位 72.9% 中学校 2位 75.9%

教室の広さ

第2位は、小・中学校ともに教室の広さでした。
昔の普通教室の広さは小・中学校で8m×8mの64㎡です。
協働的学習を充実させるためには、十分な広さではありません。

小学校 3位 71.4% 中学校 3位 72.4%

ICT環境

小学校の第3位は、ICT環境でした。
校舎内の、ネットワーク環境の整備が課題です。

黒板・ホワイトボード (板書・投影スペース)

中学校の第3位は、黒板・ホワイトボードでした。
板書・投影スペースが課題です。

小学校の声

●現代の児童の持ち物に対して、収納スペースが狭い。ロッカーの奥行きが短く、ランドセルが落ちる。廊下のフック等のスペースが狭く、廊下にも物が落ちていくことが多い。時期によって多少の増減はあるもの、常時学校に置いておかななくてはならない人あたりの持ち物数も多く、置き場も叫ばれている中、なかなか困っている。
●以前に比べ、学級の中でグループを組んで調べたり、話し合ったりという活動が多く増えている。主体的で対話的な深い学びを行うにあたっては、対話的な活動をする際に、子ども同士が机を寄せ合ったり、グループにしたりすることも考えられる。しかし、動かすスペースがないので、広い教室や教室外のスペースが必要である。
●ICT環境は電波が届きにくい。Wi-Fi環境の改善が必要。

中学校の声

●教室に生徒個人の持ち物を入れる十分なスペースがない。リュック・部活ユニフォーム等が入る大きさの個人ロッカーが必要。
●生徒の荷物が増えているためカバンが大きくなっている。カバンがロッカーに入らず、机の横にかけられるため机間巡視のままならず、生徒もつまづきやすくなる。
●40年前に学校が出来たときより、生徒の体格も大きくなり、机やイス、荷物も大きくなっている。教室の広さが現状に合っていない。
●教室では、ディスカッションや協働作業する人数に応じて、机をいろいろな形に配置したり、個々の机を離したり、自由に動かすことのできる余裕の広さが必要。
●プロジェクターを使用すると黒板の半分が使えなくなる。黒板ではなくホワイトボードを置くといい。

昔つくった学校が今の時代に合わなくなっている

困りごとランキングを見ると、昔つくった学校が今の時代に合わなくなっていることがわかります。学用品が増えているけれど収納スペースに収まらない、協働的学習をするための十分な教室の広さがなく、学校をチーム

で支えるために教員以外の人材が増えているけれど職員室に机が置けないなど、学ぶ内容や方法、体制が変わっていく中で、将来の環境変化にも柔軟に対応できる学校施設が求められています。

※以下のランキングの出典は「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査～学校施設機能のあり方編～（町田市立学校の学校施設機能のあり方に関する教員アンケート調査）」です。

教室以外の困りごと



みんなで仕事するには狭い！

職員室

小学校 3位 77.5%
中学校 1位 82.8%

職員室

職員室の困りごとは、教員や教育活動の支援人材の人数に見合った面積と機能が十分でないことです。

職員用休憩スペース・休憩室

小学校 1位 78.1%
中学校 4位 70.4%



準備室があるといいんだけど。

ボランティア人材の活動場所

ボランティア人材の活動場所の困りごとは、ボランティア人材や学校支援人材の準備室やスペースが十分でないことです。

学校支援人材・ボランティア人材用スペース・諸室

小学校 2位 78.0%
中学校 3位 71.4%

小・中学校の声 [職員室]

●職員の数に比べて、職員室の広さが十分でない。外部人材が多数登用されるようになり、それらの人の机を職員室に確保したい。今ある机の数は足りず、共用スペースで仕事をしている方もいる。
●職員用休憩スペースがない。休憩スペースは職員室から近い場所に、明るく開放的な空間として設けたい、使おうという気持ちにならない。
●会議スペースがない。話し合うスペースが必要。そこからクリエイティブな発想が生まれる。
●印刷室は作業台が十分に確保出来ないうえ、空調もなく非常に厳しい環境。

小・中学校の声 [ボランティア人材の活動場所]

●学校には、正規教員に加え、様々な方がボランティアで関わっている。その方たちの準備室や作業スペースが足りない。
●各種ボランティアの控え場所が全く無い。
●ボランティアコーディネーターや地域の方が集える場所が必要と考える。
●PTAや地域が自由に活動できるスペースと空調の完備が必要である。

推進計画でつくる新たな教育環境を探検に行こう！



5 新たな教育環境をつくる① 新たな教室をつくる [小学校編]

推進計画でつくる、未来の小学校の教室を探検してみよう!

小学校の教室を 見てみよう!

普通教室は、学校に通学して学ぶ意味を踏まえて、協働的な学習や子どもたち同士のコミュニケーションが促進されるような環境を整備します。

小学校では、協働的な学習を展開しやすくするために、オープンスペースの整備や、十分な収納スペースをつくることによって教室の広さを確保します。そして、可動式大型提示装置（プロジェクタ型電子黒板）などのICTの活用を前提に、投影面・板書面として活用することができるホワイトボードを整備します。

どう変わる? 小学校の普通教室

- 1 協働的な学習や学年単位の活動を展開しやすいオープンスペースを整備。
- 2 普通教室の面積
64㎡→110.5㎡（約1.7倍）
- 3 板書面・投影面を兼用できる
ホワイトボードを整備。
- 4 可動式大型提示装置
（プロジェクタ型電子黒板）を設置。
- 5 机周辺の荷物を収納することが
できる十分な収納スペースを確保。

大型提示装置 って何かな?

教材やみんなの意見を
拡大して共有したり、
書き込んだりできるんだよ。

オープンスペース

授業で広く使ったり、
同じ学年で
すぐに集まることもできるのね!

ホワイトボード

授業にも使えるし、
お知らせやみんなの作品の
掲示もできるのね。

教室の面積

これはすごい!
机を自在に動かすことが
できる広さがあるな。

収納スペース

廊下や棚の上に
置いていた荷物も
全部ロッカーに入るわ!

※ 町田市立学校 施設機能別整備方針にまとめた
機能拡充の内容をイラストにした整備イメージです。

新たな教育環境をつくる ②

新たな教室をつくる [中学校編]

推進計画でつくる、未来の中学校の普通教室を
探検してみましょう

中学校の教室を 見てみよう!

中学校は、協働的な学習を展開しやすくするために、体格に合わせて教室の面積を1.2倍に拡大します。

また、中学生の荷物を収納して机を移動しやすくするために、個人単位のロッカーを整備します。

そして、小学校と同様に可動式大型提示装置を整備するとともに、ロッカーを整備した場合でもICTを活用した教育活動を展開しやすくするために、投影面・掲示面として活用することができるホワイトボードを整備します。

どう変わる? 中学校の普通教室

- 1 机の間隔を確保できる
ゆとりある教室の広さを確保。
- 2 普通教室の面積
64㎡→80㎡(約1.2倍)
- 3 板書面・投影面・掲示面を
兼用できるホワイトボードを整備。
- 4 可動式大型提示装置
(プロジェクタ型電子黒板)を設置。
- 5 大きなカバンや持ち物が入る
十分な収納スペースを確保。

大型提示装置
なるほど、大型提示装置が
左右に動くのか。
これなら使い方も自由自在だな。

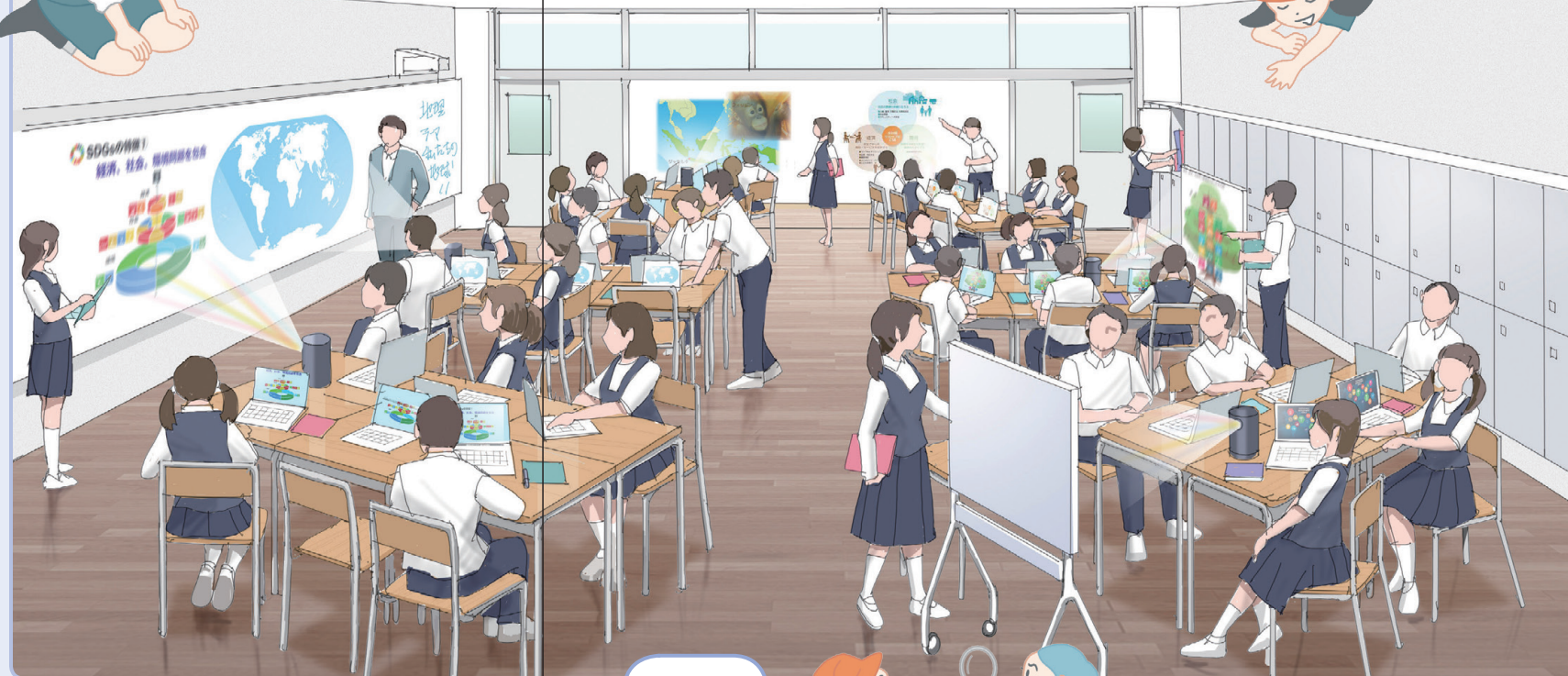


ホワイトボード
横にもホワイトボードだ!



書き込んだり、
プロジェクタから
資料や映像を
映すことも
できるのね。

ロッカー
コートもリュックも
全部ロッカーに入るのね!
助かるわ。



※ 町田市立学校 施設機能別整備方針にまとめた
機能拡充の内容をイラストにした整備イメージです。

教室は
こんなに
広くなるのか!



教室の広さ
中学生は体格が
大きいからこれくらいの
広さが必要なのよ。

新たな教育環境をつくる ③

ラーニングセンターをつくる

多様なメディアを活用しながら協働的な学習ができる
ラーニングセンターを探検してみよう!

図書室

=ラーニングセンター!?

これまでの図書室に加えて、図書や視聴覚教材といった多様なメディアを活用しながら協働的な学習を展開することができる「ラーニングルーム」を備えることで、教育活動の拠点となる「ラーニングセンター」として整備します。

このラーニングセンターは、教育活動の拠点であることを基本としつつ、放課後活動または地域開放等で活用することを想定した位置に配置することで、より開かれた活動拠点とします。

ラーニングセンター って何だろう?

- 1 図書や多様なメディアを活用しながら協働的な学習を展開することができるラーニングルームを整備。
- 2 可動式の机や椅子を使用し、普通教室よりも多様な学習活動の展開が可能。
- 3 大型提示装置で壁面全体に教材や動画などの投影が可能。
- 4 図書室の閲覧スペースを同時に使用できるよう間仕切りと遮音に配慮。

遮音と 間仕切り

間仕切りがあるから、
音を気にしなくて
良さそうね。



他のクラスが
使っているけど、
調べ学習がすぐに
できるのね。

大型提示装置

こんなに大きく投影したり、
書き込んだりもできるのか。

僕、本物と
同じ大きさのサイと
背比べしたんだよ!



机・椅子が 動かせる

机や椅子がすぐ動かせて、
床でも活動ができるよ。



ここで地域の活動も
色々できそうじゃな。

※ 町田市立学校 施設機能別整備方針にまとめた
機能拡充の内容をイラストにした整備イメージです。

新たな教育環境をつくる ④

学校と地域が協働する拠点をつくる

学校と地域が協働する拠点となるコミュニティルームと避難施設を探検してみよう！

コミュニティルームと避難施設を見てみよう！

学校は、教員だけでなく保護者や様々な地域人材に支えられて運営しています。この学校と地域の協働をさらに充実させるために、コミュニティルームを整備します。

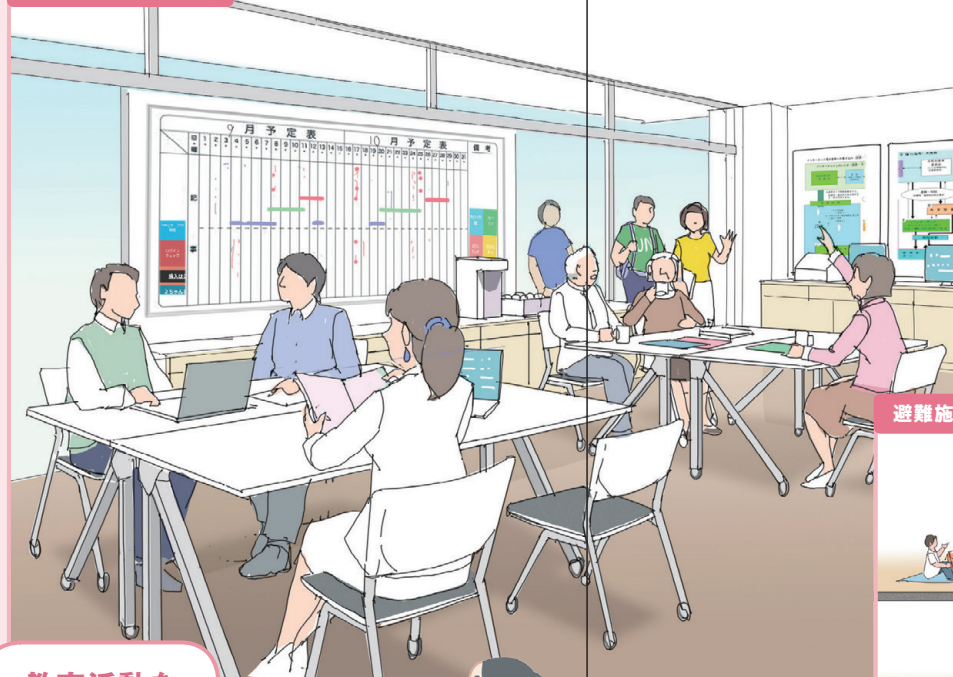
コミュニティルームは、学校の教育活動を支援する学校支援ボランティア等の活動・準備スペースとし、多世代の学校支援ボランティアの活動拠点として活用します。また、コミュニティスクールの活動など、学校と地域の協働の拠点としても活用します。

防災備蓄倉庫のような避難施設の運営に必要な施設機能について、避難施設から使いやすい位置に整備します。

地域協働の拠点・防災拠点は どう変わる？

- 1 教育活動を支援する学校支援ボランティア等の活動・準備スペースを整備。
- 2 学校運営協議会(コミュニティスクール)をはじめとした学校と地域の協働の拠点を整備。
- 3 避難施設の運営に必要な施設機能について、避難施設と一体的または近接的な位置に整備。

コミュニティルーム 昼



教育活動を支援

いろんな年代の人が集まって学校支援ボランティアの準備をしてくれているのね。



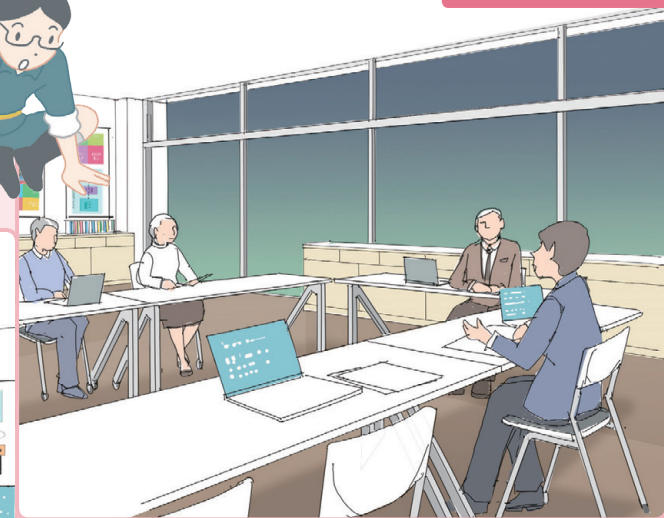
※ 町田市立学校 施設機能別整備方針にまとめた機能拡充の内容をイラストにした整備イメージです。

活動の拠点

コミュニティスクールの会議もここで開くことができるんだ。



コミュニティルーム 夜



避難施設

防災備蓄倉庫

避難施設と防災備蓄倉庫が近くにあると、荷物を運びやすそうじゃな。



避難施設として利用

新しく学校をつくと、防災拠点の作り方も工夫できるし、避難施設が利用しやすくなって助かるわね。



新たな教育環境をつくる ⑤

新たな職員室をつくる

学校を支えるチーム体制を推進する
新たな職員室を探検してみよう！

新たな職員室を 見てみよう！

職員室は、特別支援教育を担当する教員や、教員以外に教育活動に携わる人材（以下「支援人材」）も含めて1つの職員室内で執務することができる広さ（3.5教室分以上）で整備し、学校を支えるチーム体制を推進します。

また、職員室に、休憩をしながら情報交換・共有するためのコミュニケーションスペースや、効率的に作業するための印刷・教材作成スペース、スムーズに打合せするための会議スペースを併設し、教職員が働きやすくなる環境を整備します。

どう変わる？ 新たな職員室

- 1 すべての教員や支援人材が1つの職員室で執務することができる面積（3.5教室分以上）で整備。
- 2 効率的に印刷・教材作成を行うために、印刷・教材作成スペースを一体的に整備。
- 3 様々な仕事の打ち合わせをスムーズに行うために、会議スペースを整備。
- 4 休憩をしながら情報交換・共有をするためのコミュニケーションスペースを職員室に併設して整備。

コミュニケーション スペース

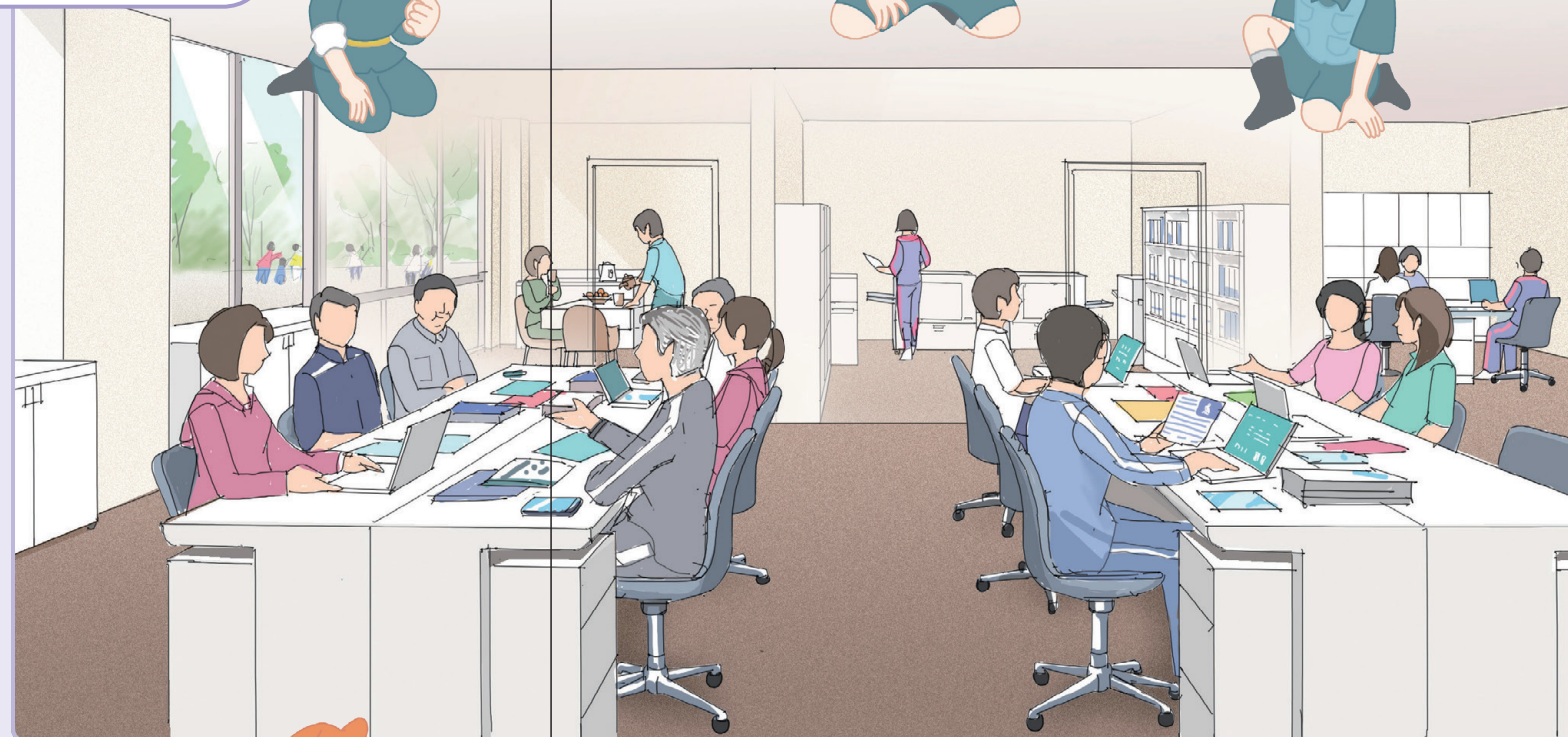
先生にも休憩できる
スペースが必要ね。

印刷室

コピー機や印刷機が
すぐ近くあって
作業しやすそうだ。

会議スペース

会議スペースが
近くにあると、すぐに集まって
話せて助かるわ。



職員室の広さ

これだけ広いと
先生以外のスタッフも
一緒に仕事ができそうじゃな。

子どもたちだけでなく、
先生や地域にとっても
良い環境になるんだね。
新しい学校が
はやく出来るといいね！

※ 町田市立学校 施設機能別整備方針にまとめた
機能拡充の内容をイラストにした整備イメージです。

6 新たな通学区域 2040

通学区域はどうなるの？ 2040年度までに実現を目指す通学区域と学校候補地、検討着手時期をご紹介します。

統合したら
同じ学校だね！
私たちの学校はいつから
話し合うのかな？



新たな通学地域一覧表

	通学区域 [中学校]	通学区域 [小学校]	通学区域となる町区域	
堺地区	1 堺・小中一貫ゆくのき学園(武蔵岡)	1 相原・小中一貫ゆくのき学園(大戸)	相原町	
		2 小山ヶ丘	小山ヶ丘6丁目・小山ヶ丘4～5丁目の一部・小山町の一部	
忠生地区	2 小山	3 小山	小山町の一部	
		4 小山中央	小山ヶ丘1～3丁目・小山ヶ丘4～5丁目の一部・小山町の一部	
鶴川地区	3 忠生・小山田	5 忠生・山崎※1・図師	図師町・忠生1～4丁目・根岸1～2丁目・根岸町・矢部町	
		6 小山田・小山田南	小山田桜台1～2丁目・上小山田町・下小山田町・常盤町	
鶴川地区	4 木曾	7 忠生第三・木曾境川	木曾西1～5丁目・木曾東1～4丁目・木曾町	
		8 鶴川	8 鶴川第一・大蔵	大蔵町・小野路町・野津田町の一部
		9 鶴川第二・真光寺	9 鶴川第二・鶴川第三※1	鶴川1丁目・能ヶ谷1～7丁目・広袴町
		10 鶴川第三※1・鶴川第四	真光寺1～3丁目・真光寺町・鶴川2～6丁目・広袴1～4丁目	
町田地区	7 薬師・金井	11 三輪	三輪町・三輪緑山1～4丁目	
		12 藤の台・金井	金井1～8丁目・金井町・金井ヶ丘1～5丁目・野津田町の一部 薬師台1～3丁目	
		13 町田第一	13 町田第一	原町田5～6丁目・中町1～4丁目
南地区	8 町田第二	14 町田第四	旭町1～3丁目・森野1～6丁目	
		9 南大谷	15 町田第二	原町田1～4丁目
		10 町田第三・山崎	16 町田第六・南大谷・高ヶ坂	高ヶ坂1～7丁目・東玉川学園3～4丁目・南大谷
		11 南	17 町田第五	玉川学園1～8丁目
南地区	12 南	18 町田第三・本町田東・本町田	藤の台1～3丁目・本町田	
		19 山崎※1・七国山	山崎1丁目・山崎町	
		20 南第一	金森4～5丁目・南町田1～5丁目	
		21 南第三・南第四	金森1～3, 6～7丁目・金森東1～4丁目	
		22 つくし野	22 つくし野・南つくし野	小川6～7丁目・つくし野1～4丁目 南つくし野1～4丁目
		23 鶴間	鶴間1～8丁目	
南地区	13 つくし野	24 成瀬台・成瀬中央	成瀬台1～4丁目・成瀬1～4丁目 西成瀬1～3丁目・東玉川学園1～2丁目	
		25 南成瀬	25 南第二・南成瀬	成瀬5～8丁目・南成瀬1～8丁目
		26 小川	26 小川	小川1～5丁目・成瀬が丘1～3丁目

一緒につくろう！ あなたの地域の新たな学校

推進計画では、2040年度までに実現を目指す新たな通学区域を示したうえで、これまでのページでご紹介した新たな学校施設機能を備えた新たな学校をつくる候補地や、新たな学校の基本計画の検討に着手する目標年

度、統合後に新校舎で授業を開始する目標年度、学校を統合する想定年度を定めています。

このページでは、推進計画に定めた新たな通学区域と学校候補地、基本計画検討着手目標年度などについて、ご紹介します。

※ 学校統合を契機とした新たな学校づくりを進めるプロセスについては、P26「7 新たな学校ができるまで」をご覧ください。

新たな学校の候補地と新しい校舎ができる時期

学校名・候補地名 [小学校]	基本計画 検討着手	新校舎 使用開始	想定 統合年度
1 本町田東	○		2025
本町田	○	2021	2028
町田第三			2028
2 南第二	○	2021	2028
南成瀬			2025
3 鶴川第二	○	2021	2029
鶴川第三※1			2026
4 鶴川第三※1	○	2021	2029
鶴川第四	○		2026
5 南第一	—	2022	2028
6 小山田	○	2024	2031
小山田南	○		2031
7 忠生		2025	—
山崎※1	○		※3 2030
図師	○		—
8 町田第二	—	2025	2032
9 山崎※1	○	2027	2033
七国山	○		2030
10 南第三	○	2027	2033
南第四	○		2033
11 町田第六	○		2031
高ヶ坂		2027	2034
南大谷			2036
12 町田第四	—	2027	2034
13 町田第五	—	2028	2035
14 鶴川第一	○	2030	—
大蔵			※3 2032
15 つくし野	(○)		
南つくし野		2030	2036
つくし野セントラルパーク	○		2036
16 忠生第三	○	2030	2037
木曾境川			2034
17 相原	○		2038
小中一貫ゆくのき学園(大戸)		2031	2038

学校名・候補地名 [小学校]	基本計画 検討着手	新校舎 使用開始	想定 統合年度
18 町田第一	—	2031	2038
19 成瀬台	○	2033	2039
成瀬中央			2036
20 藤の台			
金井		2033	2039
金井スポーツ 広場	○		2039

学校名・候補地名 [中学校]	基本計画 検討着手	新校舎 使用開始	想定 統合年度
1 薬師	○	2024	2030
金井	○		2027
※2 町田第三	(○)	2025	2031
山崎	(○)		2031
木曾山崎公園	○		2031
3 南成瀬	—	2025	2031
		※3	—
4 鶴川第二	○	2030	2036
真光寺			2036
5 南	—	2031	2037
6 堺	○	2031	2038
小中一貫ゆくの き学園(武蔵岡)			2038
7 忠生	○	2033	2040
小山田			2037

新しい校舎に
なるのは
いつかしら？



※1 学区を2つに分割して統合します。

※2 学校用地を除いて、推進計画策定時に学校が建っていない候補地は、そこに学校が建てられるかどうかの調整が必要であるため、すでに学校が建っている候補地から次点の候補地を選んでいきます。次点の候補地は「(○)」と表記しています。

※3 改築はせず、既存校舎活用、増築工事、長寿命化改修工事のいずれかで対応することを予定しています。



スクールバスなど、
通学の負担軽減の
方法も
検討します！

7 新たな学校ができるまで

まちでの新たな学校づくりは、保護者や市民の皆さまとともに進めていきます。その新たな学校ができるまでの道のりを見てみよう！

Start

2021年5月 推進計画 決定

新たな学校施設整備の理想と、その理想を実現するための新たな通学区を決定。

2021年 10月~11月 推進計画 説明会

推進計画の概要や、推進計画策定までの経過、今後の進め方について説明します。

みんなで話を
聞きに
行ってみよう！



統合新設校 意見交換会

現在の通学区の単位で開催。「基本計画検討着手目標年度」の早い通学区から開催。



なるほど！
私たちの新しい学校は
こうやってつくるのか。

通学区ごとに開催。 未就学児の保護者も 参加可能！

通学の負担軽減や安全対策、学校統合時の子どもたちへの配慮など保護者や市民が気になることを意見交換し、検討課題を確認します。

新たな学校の 基本計画決定

新たな学校の基本計画を教育委員会で決定。新校舎の設計に着手します。

どのような学校にしたいか、
みんなで話し合ってみよう。

学校名や教育目標、意見交換会で出た検討課題、新校舎建設基本計画、統合する学校の歴史の継承などについて、みんなで話し合ってみよう。



新たな学校の 基本計画検討会

新たな学校をつくるための検討課題について、新たな通学区ごとに検討会を設置。保護者、地域住民、教員を交えて検討。

みんなで考えた
基本計画をもとに
学校をつくっていくぞ。



学校統合

新たな学校の基本計画で決めたスケジュールをもとに学校を統合します。

新しい友達が増えて、
大きいクラス替え
みたいだね！



学校統合の時期は 学校ごとに異なります。

新校舎建設の工事スケジュールや仮設校舎の要否などによって、新校舎建設工事の開始前に統合する場合や、新校舎完成後に統合する場合があります。

工事

新校舎建設工事は、旧校舎の解体工事も含めて3年程度かかります。

新たな学校 完成!!



新しい学校ができた！
みんなで
子どもと学校を
育てていこう！

Goal

みんなでつくる 新たな学校づくりを目指して

学校は、放課後活動の拠点、防災活動の拠点、地域活動の拠点としての役割を果たしていることから、学校を統合してつくる新たな学校は、市民の皆さまに参画いただいでつっていきます。

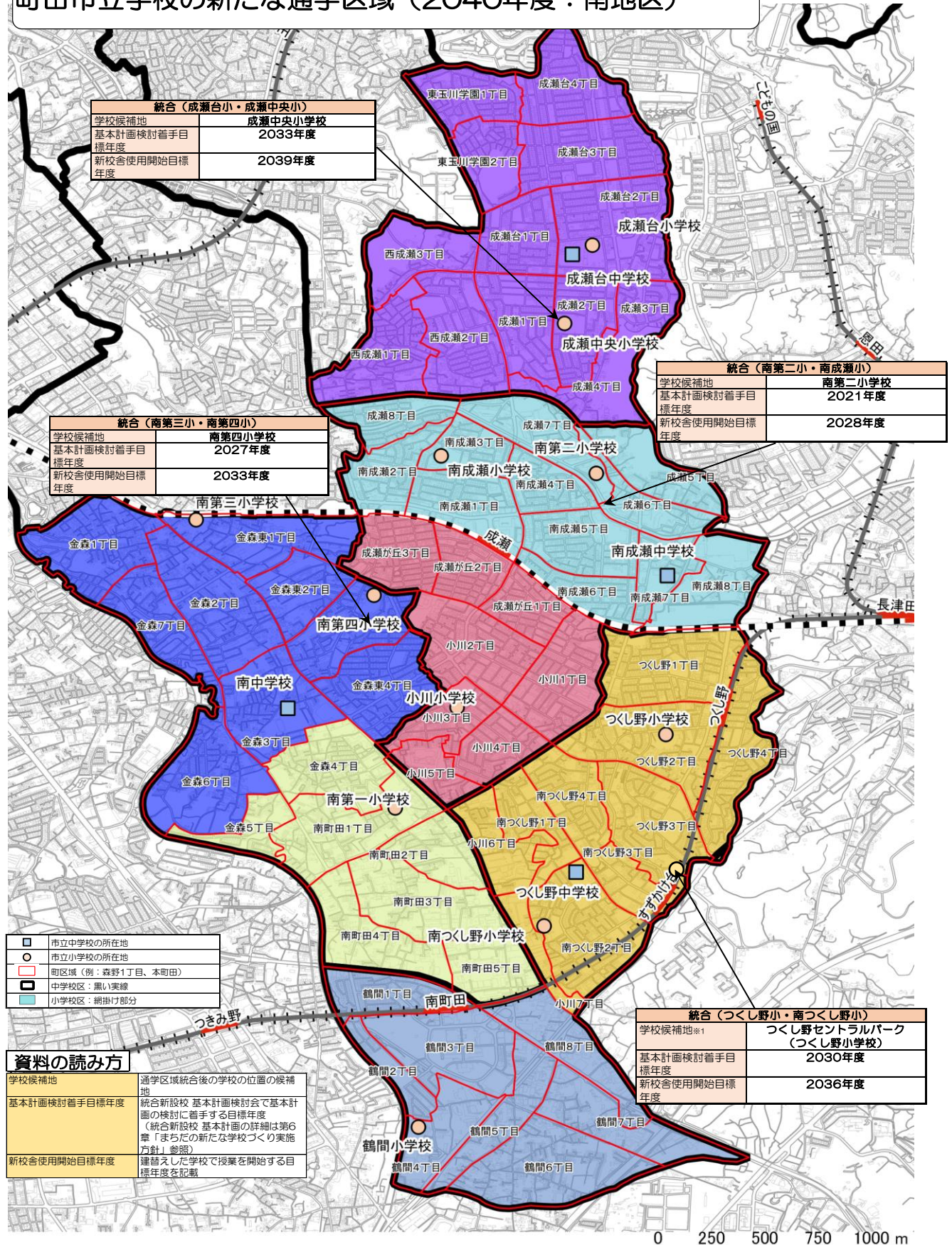
説明会を通じて、推進計画の概要や今後の進め方を説明するとともに、現在の通学区を単位とした意見交換会を開催して、統合新設校の設置に向けた検討課題を丁寧に把握していきます。そして、意見交換会で把握した検討課題を踏まえて、市民の皆さまに参画いただく基本計画検討会を設置して具体的な検討を進めていきますので、まちでの新たな学校づくりにぜひご参加ください。

2 町田市新たな学校づくり推進計画の概要

〈参考2〉 町田市立学校の新たな通学区域について（各地区）

町田市立学校の新たな通学区域（2040年度：南地区）

町田市立学校の新たな通学区域（2040年度：南地区）



※1 学校が設置されていない候補地（学校用地を除く）は、実現可能性も含めた検討・調整が必要となることから、学校が設置されている候補地の中から次点となる候補地として「○」を付して記載。

8 よくある質問と回答

推進計画に関連して、これまでに保護者や地域住民の皆さまから
お寄せいただいたご質問のうち、よくある質問と回答をご紹介します。



〔保護者の方〕

Q1 学校の統合により、子どもの通学距離が遠くなります。どのような配慮がありますか？

A1 お住まいに近い学校がある場合、通学区域緩和制度で就学を希望することができます。また、公共交通機関のさらなる活用やスクールバスの導入などのような様々な負担軽減策について、地域の実情やニーズを踏まえて検討・実施する予定です。

Q2 私の子どもは、学校統合時に通学する学校が変更になります。転校せずに変更前の学校に通い続けることは可能ですか？

A2 学校を統合する時点で、通学区域が変更になる地域にお住まいのお子様は、在籍していた学校が統合となった新設校と、通学区域変更後の指定校から、通学する学校を選択できるよう配慮いたします。



〔地域の方〕

Q3 学校の跡地はどうなりますか？

A3 学校が廃校となる時期によって、社会や地域の状況が変わることが想定されるため、統合新設校の具体的な検討に着手後、学校跡地の活用についても検討していきます。

Q4 母校がなくなるのは寂しいです。何か思い出や歴史を残せたいでしょうか？

A4 統合する学校に各校の歴史、伝統をどのように引き継いでいくか、基本計画検討会において地域住民の皆さまと検討していきます。

まちだの新たな学校づくり [資料編]

まちだの新たな学校づくり(本紙)に掲載した資料と、資料の確認方法をご紹介します。



1 町田市新たな学校づくり推進計画

「推進計画」は、学校統合を契機として、まちだの未来の子どもたちが夢や志をもち、未来を切り拓くために必要な資質・能力を育むことができる環境づくりを進めることを目的として、新校舎使用開始目標年度などを定めています。

2 町田市立学校個別施設計画

「個別施設計画」は、建替えや改修工事を計画的に行うため、老朽化状況の整理と建替えや改修などの整備に関する考え方を定めています。

3 町田市立学校個別施設計画(学校整備計画編)

「個別施設計画(学校整備計画編)」では、推進計画と整備方針を踏まえて、建替えや改修工事の想定時期や費用などを定めています。

4 町田市立学校施設機能別整備方針

「整備方針」では、新たな学校施設を建設するための理念と方針を具体化するため、施設機能別に教室、面積、配置などを定めています。

5 町田市公共施設再編計画

「再編計画」は、公共施設・公共空間のより良いかたちの実現を目指して、公共施設再編の基本的な考え方などを示しています。

こちらからご覧ください

推進計画などの資料は、町田市ホームページにも掲載しています。資料の1から4は、下のQRコードからアクセスすることができます。再編計画やアンケートの報告書などは、アクセスしたページから検索してください。

まちだの新たな学校づくりに関するお知らせ
(町田市ホームページ)



まちだの新たな学校づくり Machida New School Project 2040

発行 町田市教育委員会
〒194-8520 東京都町田市森野 2-2-22
2021年9月発行
刊行物番号:21-38

編集 町田市教育委員会学校教育部教育総務課
デザイン 藪内新太
イラスト 佐久間 茜
印刷 東洋紙業株式会社

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。